

2014

Vol.1

Jplus

ジェイフィード® ペグロックシステム

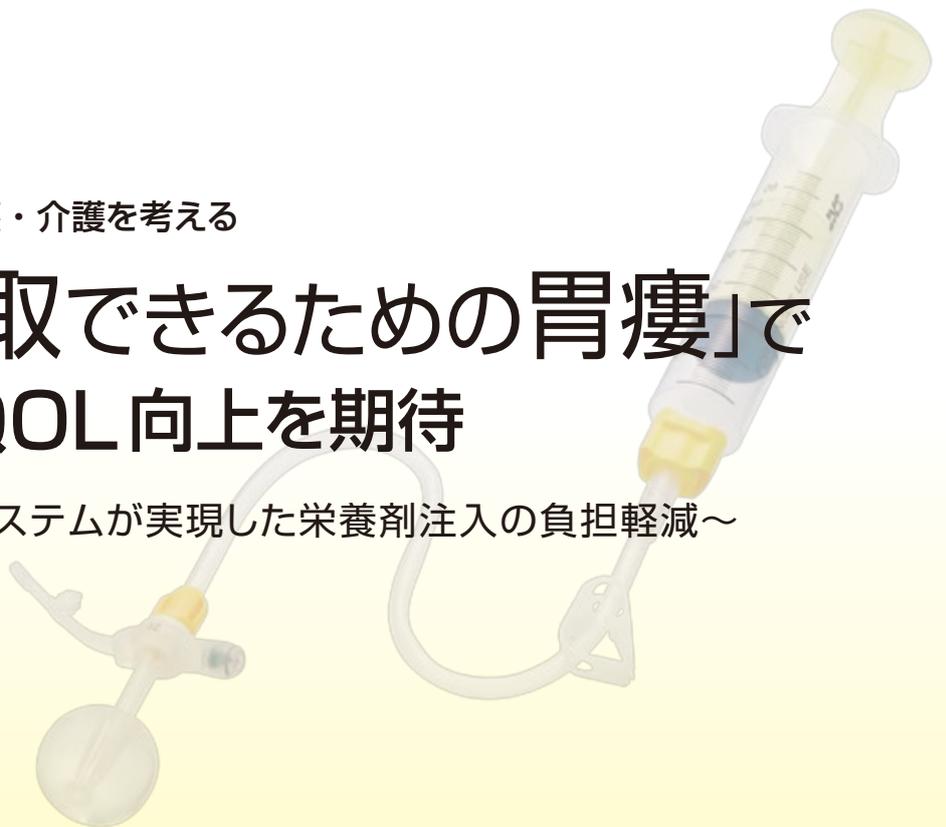
Users' Report

誠広会 平野総合病院（岐阜市）

胃瘻の意義と胃瘻患者さんの看護・介護を考える

「再び経口摂取できるための胃瘻」で “生きる意欲”とQOL向上を期待

～ジェイフィードペグロックシステムが実現した栄養剤注入の負担軽減～





岐阜市の誠広会平野総合病院(病床数199床)は――

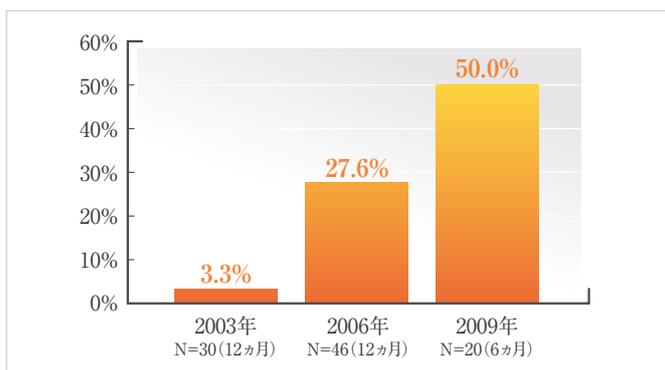
地域の中核施設として24時間の救急対応と幅広い病診連携を担い、訪問看護も積極的に行われています。同院では昨年にジェイフィードペグロックシステム(以下、ペグロック)を導入しており、導入によって何がどのように変わったのか、胃瘻を巡る昨今の議論や胃瘻造設の意義なども交え、消化器内科部長の島崎信先生をはじめ、胃瘻患者さんのケアに携わる看護師の皆さんにお話を伺いました。

「再び経口摂取できるための胃瘻」を目指したチーム医療を実現

胃瘻患者さんの半数が再び経口摂取可能に

「当院にはリハビリテーション科は設置されておらず、摂食嚥下の専門医がない環境下でもできることとして重視しているのは『再び経口摂取できるための胃瘻』であり、そのために2006年から摂食・嚥下リハビリテーションに力を入れています」と島崎先生。

平野総合病院では胃瘻造設患者さんがその後に経口摂取できるようになったのは2003年ではわずか3%でしたが、リハビリを導入した2006年には28%、2009年は50%と増え、現在、患者さんの7~8%は胃瘻を閉鎖できています(図)。



図：平野総合病院の胃瘻造設患者さんにおける経口摂取可能な患者さんの割合(部分摂取を含む)

島崎先生は、食べる機能が回復すればしゃべる機能も向上し、患者さんが一口でも二口でも食べて、お話ができるようになるまでに状態がよくなることはご家族にとっても大きな喜びになると考えています。そのため、胃瘻造設後の患者さんの嚥下機能を正しく評価し、スタッフが安心してケアと指導に取り組めるようにするのが先生の大きな仕事の一つになっているとのことです。

胃瘻は患者さんを以前の状態に戻す手段

看護師長の北川さんは「胃瘻造設後に栄養状態がよくなり、『自分で食べたい』『あれが食べたい』という意欲が湧いてきた患者さんを多く見てきたことで、私も患者さんとご家族に胃瘻造設を前向きに考えていただけるように説明しています」とおっしゃいます。

看護師の奥田さんと山口さんも、味覚を満足させる楽しみとして経口摂取し、必要な栄養とカロリーの摂取は胃瘻からという、経口摂取と胃瘻の併用という方法を実践したことで胃瘻に対する意識が大きく変わったと感じているようです。

「胃瘻造設の意義は終末期における延命だけではありません。『食べるための胃瘻』は患者さんのQOL向上に大きく貢献しています」と奥田さん。山口さんも「入院時の全身状態は芳しくなかった患者さんも胃瘻造設によって日に日に回復し、笑顔も浮かぶようになり、嚥下機能も向上して楽しみ程度なら食べられるといった患者さんもいます。胃瘻は患者さんを以前の状態に戻して差しあげる一つ的手段ではないかと思っています」と語ります。

看護師と介護者に安心感を提供するペグロック

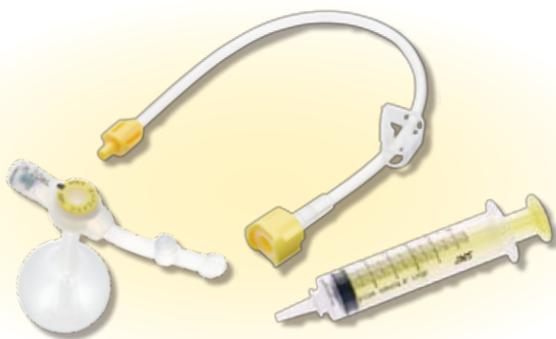
「接続部がロックできる」というコンセプトに共感 「単なるロック」が大きな要素

近年では胃瘻の栄養管理を容易にする半固形状栄養材短時間注入法が広まるとともに、そのバリエーションが充実し、利用が増えています。半固形状流動食は従来の液体の栄養剤に比べて注入時間が短くて済み、生理的な胃の蠕動運動を促進させ、合併症を起こしにくするなどメリットが多いのですが、注入抵抗が大きいことから接続部のはずれによる漏れやチアバッグの破損などのトラブルが高頻度で起きているといわれています。

しかし、昨年に平野総合病院でペグロックを導入したところ、トラブルを大幅に抑えることができたといいます。島崎先生は「半固形状流動食は日本で開発されました。したがって日本のメーカーがトラブルを解決すべきと考えていたところ、接続部がロック可能なペグロックが登場したわけです。しかもユニバーサル。『ああ、このメーカーは現場の苦労を理解してくれているのだな』と感じて導入に踏み切りました」と経緯を振り返ります。



消化器内科部長 島崎 信先生



看護と介護の立場からペグロックのメリットを実感

お父様が胃瘻を造設していることでご自宅でも胃瘻を看ている北川さんは、職場に加えてご自宅でも漏れや破損を多く経験されており、「介護者にとって思わぬ洗濯や掃除は重労働です。また、汚れや匂いは簡単には拭き落とせません。ペグロックに切り替えてからは漏れや破損はなくなり、掃除などの負担は大幅に軽減しました」と、介護者にとっては安心感をもって介護にあたるのが何よりも大きなメリットであり、在宅介護におけるペグロックの意義を評価しています。

「両手で注入」できる安心感

片手で接続部を押さえて片手で注入するけれどなかなか注入できないためベッドの柵に押し付けるなどして注入したり、飛散に備えて接続部分にタオルや大量のティッシュペーパーをかぶせたりと、いつも栄養剤が飛散するのではないかと不安を感じながら注入していたという奥田さん。「私も以前は壁や天井まで飛散した栄養剤をモップと雑巾で拭いていました。忙しい看護業務のなかで思わぬトラブルは大きな負担です。ペグロック導入後は両手で注入できるのでそのようなことから解放されています」と安心して注入ができています。



看護師 奥田さん

患者さんのために「継続」できる体制を

半固形状流動食を利用している患者さんには、仙骨部分に褥瘡があることで摂取時間を少しでも短くしたいなどの理由がある方もいらっしゃると思います。在宅や施設でも、そういった患者さんに半固形状流動食の利用を続けていただくためにも、ロックがかかるペグロックの安心感は大きく、QOLや皮膚障害の原因予防にも有用と考えられています。

さらに看護師や介護者の側面でも「看護師や介護者にとって楽に注入できるのは加圧バッグを使用すること。私もペグロックによって今では安心して加圧バッグを用いて注入しています」と山口さん。加圧バッグの場合、注入中に接続部が外れると止めることができないので、以前は使用したくても使用できなかったといいます。



看護師 山口さん

現場の負担の軽減につながる、さらなる製品の登場に期待

予期せぬ洗濯や掃除などが重労働となり、現場では看護師や介護者の心が折れてしまうことがあるようです。そのため、『トラブルは起こらない』という安心感は看護師や介護者にとって、とても大きな心の支えになるのかもしれない。

「胃瘻患者さんの看護と介護の問題はそのまま日本の看護と介護の現状を反映しています」と島崎先生。そのため、使用する医療機器には

現状に合った製品が求められるのですが、「現場をよくわかっている国内メーカーが、看護師や介護者の負担を軽減できるよう、これからも現場の意見を取り入れたよりよい製品を出していただきたいですね」と製品の今後に期待を寄せています。



消化器内科部長 島崎 信先生

誰もが胃瘻について正しい知識を持つことが必要

患者さん・介護者・医療従事者、 みんなが安心できる 互いの理解を求めて

ご自宅でも胃瘻を看ている北川さんは、瘻孔管理についても「清潔に保つなどの注意は必要ですが、洗浄や消毒がきちんとなされていれば、ことさら神経質になる必要はありません。『清潔に』を強調しすぎると看護や介護も萎縮してしまいます」とアドバイス。



看護師長 北川さん

高齢の患者さんが多いことで奥田さんも「皮膚トラブルが起きてから対応するのではなく、起きないように撥水性の軟膏や保湿剤を使って予防的スキンケアを行うことを広めていく必要がありますね」と付け加えます。

平野総合病院では在宅で看る患者さんや介護者に対して、山口さんが中心となって胃瘻の理解度チェックリストを作成し、確認されています。「説明した」の一方通行ではなく、「理解したかどうかの確認」ができてこそ、患者さん、介護者、そして医療従事者も安心できるのではないかと考えられています。

胃瘻をめぐる課題についても「医師、看護師、介護者による日ごろのチェックが重要であり、在宅介護においても胃瘻の意義と管理についてさらなる周知が必要」と島崎先生は展望されています。

誠広会 平野総合病院 Hirano General Hospital

- 開設 / 1970年に平野医院として開業。1983年に総合病院を開設。
- 所在地 / 岐阜市黒野
- 病床数 / 199床
- 職員数 / 335名
- 診療科目 / 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、外科、消化器外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、血液浄化センター、健診センター



<http://www.jms.cc>

販売元
株式会社 ジェイ・エム・エス

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
お問い合わせ先
カスタマーサポートセンター ☎0120-200-517
✉ csc@jms.cc